

令和元年度 獣医公衆衛生学会（北海道）

地区学会長：村松 康和（酪農学園大学）

第1日（8月29日）会場（A106講義室）

9：30～10：10

座長：坪田 敏男（北大）

公-1 スズメ *Passer montanus* の幼鳥で確認された致死的な原虫感染症の2例○黒澤信道¹ 古谷和弥² チェンバーズ ジェームズ² 内田和幸² 中山裕之²

(1)JAくしろ丹頂 (2)東京大獣医病理学)

公-2 タンチョウの野生ヒナにおける鳥マラリア原虫保有状況

○飯間裕子^{1,2} 新名勁太³ 犬丸瑞枝³ 井上雅子² 住吉 尚² 百瀬邦和² 佐藤雪太³

(1)釧路市動物園 (2)タンチョウ保護研究グループ (3)日本大実験動物学)

公-3 エゾシカの捕獲地比較によるE型肝炎ウイルス感染状況

○毛塚ゆかり¹ 加藤（森）ゆうこ² 萩原克郎¹

(1)酪農大感染・病理学 (2)ViSpot)

公-4 ワシ終生飼育個体の活用法について

○小笠原浩平 渡辺有希子 齊藤慶輔

(猛禽類医学研究所)

10：20～11：00

座長：成澤 昭徳（帯広食肉衛検）

公-5 と畜場の病畜と室で処理された起立不能牛のと畜検査所見

○竹田祥子¹ 中城 了¹ 刈屋達也²

(1)早来食肉衛検 (2)上川保健所)

公-6 牛白血病ウイルス感染牛における高い血中プロウイルス量は乳廃用牛の枝肉重量を減少させる

○中田悟史^{1,2} 藤本悠理² 小原潤子³ 足立泰基⁴ 蒔田浩平²

(1)NOSAI道東 (2)酪農大衛生・環境学 (3)道総研畜試 (4)八雲食肉衛検)

公-7 と畜検査で実用可能な牛白血病迅速診断法の検討

○齋藤麻矢¹ 神谷可菜¹ 清水俊一¹ 大野祐太²

(1)早来食肉衛検 (2)道衛研)

公-8 と畜検査における地方病性牛白血病の細胞診断の有効性についての検討

○神谷可菜 齋藤麻矢 清水俊一

(早来食肉衛検)

11：10～11：50

座長：山本 靖典（八雲食肉衛検）

公-9 Spa typing を用いた食鳥処理場における黄色ブドウ球菌汚染の分子疫学的調査

○薦田彩良¹ 宗像哲夫¹ 足立泰基² 山奈津子¹ 飯沼利之¹ 平井伊万里¹ 池田徹也³大野祐太³

(1)東藻琴食肉衛検 (2)八雲食肉衛検 (3)道衛研)

公-10 当所所管と畜場における牛の体表汚染低減に向けた取り組み

○木村香澄¹ 田中麻理² 大内 敏¹

(1)北見保健所 (2)岩見沢食肉衛検)

公-11 と畜場における豚の頭部外皮と舌の微生物汚染状況調査および衛生管理向上への取り組み

○澤 尚樹¹ 笹谷優子¹ 黒田裕介¹ 浪岡幸代¹ 大野博士¹ 泉田真樹¹ 山本靖典¹足立泰基¹ 竹下日出夫² 大野祐太³ 池田徹也³

(1)八雲食肉衛検 (2)倶知安保健所 (3)道衛研)

公-12 北海道胆振東部地震におけると畜場の災害対応と今後の課題

○脇瀧稔洋¹ 奥野尚志¹ 猪子理絵¹ 大谷美和子² 成澤昭徳¹

(1)帯広食肉衛検 (2)東藻琴食肉衛検)

第2日（8月30日）会場（A106講義室）

9:00～9:30

座長：廣井 豊子（帯畜大）

公-13 大腸菌での薬剤耐性遺伝子の接合伝達頻度にバイオフィームや抗菌薬暴露が及ぼす影響

○岡村真吾 白井 優 田村 豊

（酪農大衛生・環境学）

公-14 コリスチンの使用中止が豚由来大腸菌の耐性率および *mcr* 保有率へ与える影響の解明

○野澤洋平¹⁾ 白井 優¹⁾ 福田 昭^{1,2)} 佐藤友美¹⁾ 山田未知³⁾ 田村 豊¹⁾

（¹⁾酪農大衛生・環境学 ²⁾大阪健康安全基盤研究所 ³⁾酪農大循環農学類）

公-15 北海道内でヒトから分離された非チフス性サルモネラの薬剤耐性保有状況

○小川恵子¹⁾ 渡邊涼太²⁾ 三津橋和也¹⁾ 藤原悠作³⁾ 松川泰士³⁾ 伊藤政彦³⁾ 森本 洋¹⁾

（¹⁾道衛研 ²⁾上川保健所 ³⁾札幌臨床検査センター）

9:30～9:50

座長：池田 徹也（道衛研）

公-16 ヒト由来口腔内細菌叢との比較に基づく犬由来口腔内細菌叢調査における

MALDI-TOF MS システムを用いた菌種同定法の意義

○堀江一樹¹⁾ 郡山尚紀²⁾ 西川泰代¹⁾ 内田玲麻¹⁾ 村松康和¹⁾

（¹⁾酪農大衛生・環境学 ²⁾酪農大獣医保健看護学）

公-17 飼い主とその飼育犬に関する口腔内細菌叢の相互関連性調査

○西川泰代¹⁾ 郡山尚紀²⁾ 堀江一樹¹⁾ 内田玲麻¹⁾ 村松康和¹⁾

（¹⁾酪農大衛生・環境学 ²⁾酪農大獣医保健看護学）